

弱さの美学

永田円了



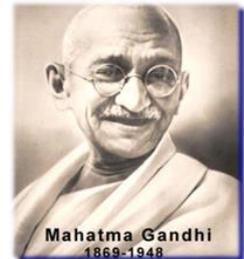
The Power Of Introverts

競争社会では誰もが自分の強さを誇示したがる。学歴、地位、財産、名誉など、他人よりも強く、自分がより勝っているということが、人間にいかん快樂を与えてくれるかということは、計り知れない。強くなければ生きる資格はない、という暗黙のルールが人々の心を縛っている。この講座の用語でいうなら、人間は”マインド”の支配下にある限り、強さ指向の呪縛から逃れることはできないのである。

外向的 vs. 内向的

現代社会では、外向的な人がより出世をする。逆に内向的な人は、引っ込み思案で人付き合いも悪いと言われる。学校でも生徒は、より外向的になるように教育される。内向性は弱く、ネガティブな意識だとして改められる。このように教育の分野でも外向的な「強さ」が育成され、みんなの輪にうまく入れない内向的な生徒たちを、なんとか輪の中に入れようとする。果たして、内向的な人は社会的に劣る人なのだろうか？

恥ずかしがりやイコール内向的ではない。前者は、外の目を気にする。自分がどう思われるのだろうかばかりを気にして、自分をうまく表現できない人をいう。後者は、関心が自分の内側にあり、外の刺激を避け一人で物思いにふけったり、本をよんだりで過ごすことを好むタイプである。



外の目、世間の目を気にするという点でいうなら、程度は異なれ、恥ずかしがりやの性質は全ての人にあってはまる。一方内向的な人は、人生を深掘りする気質なので歴史にも多くの名を連ねる。マハトマ・ガンジー、エレノア・ルーズベルト、ダーウィン、モーゼス、ジーザス、ブッダ、これらはTEDスーパープレゼンテーションで挙げられた人物である。

これらの人物に共通に言えることは、人生を静かな環境のもと、一人でじっくり考えたということである。人との競争で自分の優位を示すことより、自らの内側で何が起きているのか、に関心があった。自分自身の意識の有り様を探ることによって、本来のありのままの人間の姿を求めたのである。



ありのままの自分

権力欲にしがみついた人間が迎える結末は侘びしいもの。栄枯盛衰、人には必ずその地位を去らねばならない定年や、老年期がくる。その時こそ、本当の自分の姿に出会う。人間は、本来弱き生き物である。生まれたばかりの赤ちゃんのとき、年老いて自分の力だけでは生きて行けなくなったとき、人は無力さを感じ、本来の人間の姿を自覚する。人間は一人では無力な存在であることを。

弱さは、自分が他人を必要としていることを教えてくれる。

弱っているとき、人は助けを求める。その過程を通して、人は謙虚になり、成長をする。

<事例 DVD>

三島由紀夫／弱さから強さへ
植村直己／自分が弱い人間だと知っているからこそ
塩沼亮潤／千日回峰行／「許し」でエンパワー
NHK 逆転人生「あるボクサーの物語」／弱さのまま勝負
堀ちえみ／舌ガン／弱さの役割
歌・ブラザーズフォー「七つの水仙」

円了のホームページ：www.enryo.jp



堀ちえみ (53 歳)